

## ～ごあいさつ～

本日はご多用の中、第59回広島大学邦楽部定期演奏会にお越しくださいまして、誠にありがとうございます。

昨今の情勢を受け活動が制限されてまいりましたが、部員一同、この日に向けて一丸となって練習に励んでまいりました。本日はその集大成を皆様に披露させていただきます。演奏を通じ、少しでも皆様になごわいをお届けできれば幸いです。まだまだ未熟な私達ではございますが、今後ともよりいっそう精進してまいりたいと思います。

最後になりますが、今回の演奏会を開催するにあたりご指導・ご支援して下さった方々、OB・OGの方々、そしてご来場の皆様に心より御礼申し上げます。本日はどうぞ最後までごゆっくりお楽しみください。

広島大学邦楽部部长 田中静也

## ～プログラム～

- |           |        |    |       |    |
|-----------|--------|----|-------|----|
| 1. Lemon  | 米津 玄師  | 作曲 | 吉岡 翼  | 編曲 |
| 2. 彩      | 米川 敏子  | 作曲 |       |    |
| 3. 和楽     | 和田 薫   | 作曲 |       |    |
| 4. I ZUMI | 水川 寿也  | 作曲 |       |    |
|           |        |    |       | 休憩 |
| 5. 夜に駆ける  | Ayase  | 作曲 | 佐藤 亜美 | 編曲 |
| 6. AKI TA | 江戸 信吾  | 作曲 |       |    |
| 7. 上昇の彼方  | 沢井 比河流 | 作曲 |       |    |
| 8. 涼流     | 水川 寿也  | 作曲 |       |    |
| 9. 海鳥の詩   | 江戸 信吾  | 作曲 |       |    |

## —楽器紹介—

### 箏

箏は代表的な伝統楽器の一つです。現在日本で広く演奏されている箏は奈良時代に唐から伝わり、雅楽に使用する楽器として親しまれていました。箏の内部は空洞になっていて、下面には共鳴のための穴があり、より良い響きが出るように工夫されています。箏には13本の絃（糸）があり、絃を支える柱（じ）を動かして音程を調整した後、箏爪で絃を弾くことで演奏できます。爪には、先が四角い形のもの（生田流）と丸い形のもの（山田流）の2種類があり、それぞれ音色や奏法が異なります。（写真は生田流。）



箏は、長い時間をかけて、より良い音色や豊かな表現のために改良が加えられてきました。17本の絃がある十七絃（十七絃箏）は、『春の海』の作曲者として名高い宮城道雄が大正10年に開発したと言われており、近年開発された「新箏」の中で最も一般化したものです。一般的な箏の長さが約六尺（182cm）であるのに対し十七絃は約七尺（210cm）と長く、低音がよく鳴るように作られていることから、合奏においてはベースの役割を果たすことが多くなっています。

古典曲やポップスだけでなく、クラシックやジャズ、ロックなどとのコラボレーションも試みられるなど、多くの可能性を秘めた楽器といえます。



#### 気になるあれこれ ～「箏」と「琴」って違うの？～

「箏」はここまで紹介してきたような楽器を指しています。現代において一般的によく見られるものですね。「琴」は、「古琴」や「和琴」などを指します。両者の大きな違いは、「柱（じ）」があるかないか。「琴」には柱（じ）がありません。ただし、「箏」は常用漢字ではないため、代わりに「琴」の漢字が使われることも多いようです。また、文献によっては細かい区別が異なることも…。基本の違いは知った上で、状況に応じて使い分けられると良いですね♪

## 三絃

三味線とも呼ばれる日本の楽器の一つです。三味線は合奏する内容に合わせていくつかの種類があり、細棹、中棹、太棹に大別され、音色も違います。一般に細棹は小唄や長唄に、中棹は地唄や一般民謡に、太棹は義太夫や浪曲等に使用されています。三味線という用語と津軽三味線が有名ですが、津軽三味線は太棹の分類に入ります。広島大学邦楽部では「三絃」と呼ばれる「地唄」で使用される中棹の三味線を使用しています。しかし、いずれも基本構造は同じで、天神（三味線上部）、棹（ネック部分）、皮の張られた胴（ボディ部分）から成っています。棹には三本の絃が張られており、その絃を左手の指で押さええて音の高さを変えながら、右手に持った撥で演奏することはもちろんのこと、ほかにも左手の指で弦をはじいたり、指で弦を強く打って音を出したりと、演奏の方法は様々です



# 尺八

尺八という名称は全長が一尺八寸（約 54.5 cm）あることから名付けられたという説もありますが、一寸ごとにさまざまな長さのものが存在します。一寸短くなるごとに半音高い音が出るようになっており、調によって長さの違いのものに持ち替えたりすることもあります。今回の演奏会では一尺八寸管（標準管）と一尺六寸管を用います。

木で作られたものもありますが、多くの場合材料は真竹です。表に4つ、裏に1つある穴（五穴）を直接指で塞ぎながら、歌口（吹き口）に息を吹きかけて音を出します。竹という天然の素材でできているため、1本1本の太さや穴の大きさも異なり、奏者の個性が発揮されやすい楽器です。

尺八は普化宗が廃宗となるまでは虚無僧のみに演奏が許されていた法器でした。そのため、尺八の古典曲は精神修行や読経のかわりに吹奏された宗教色の濃い曲となります。しかし、明治以降には、本来三絃と琴の曲である箏曲に尺八が加わった三曲合奏や民謡の伴奏楽器に用いられるようになりました。現在では様々な楽器との合奏にあらゆるジャンルで用いられています。

以上の三種類の楽器を主に用いています。楽器の特性を知ると演奏をより楽しむことができますと思います。少しでも参考にしていただけたら幸いです。

